



MACKIE.®

Frequently Asked Questions

SRM Series

質問

パワーアンプからの出力をSRMシリーズの入力に接続することはできますか？

答

重要な質問ですね。パワーアンプからの信号はSRMシリーズに接続しないでください。SRMシリーズのインプットにはパワーアンプからの信号ではなくミキサーからのメインアウトやAUXアウトなどライン信号を接続してください。SRMシリーズのようなパワードスピーカーにパワーアンプの信号を接続するとスピーカー破損や、もしかすると火事の原因にもなります。

SRM150のHi-Zスイッチはどのようなときに使うのですか？

アコースティックギターなどのハイインピーダンスでアンバランス信号を接続する際に使います。バランスのライン信号やマイクを接続する際にはこのスイッチをOFFにしてください。

天井吊設置やワイヤーでのフライング設置等することはできますか？

Mackieの設計者たちはフライポイントを設け固定設備でも設置ができるように設計しました。スピーカーをフライングなどで設置するには落下など危険が伴いますので、専門技術を持った施工業者に依頼することをお勧めします。SRM550とSRM650にはM10×1.5×37mmのアイボルトが使用できます。SRM350とSRM450にはM10×1.5×20mmのアイボルトが使用できます。Mackieでもオプションでアイボルトを用意しております。

電源をオン、電源をオフにした際に、プツという小さなノイズが発生しますがこれは正常な状態ですか？

SRMシリーズのスピーカーの電源をオン・オフした際に聞こえるノイズは正常な状態であり、故障ではございません。このノイズはスピーカー内蔵のパワーアンプ回路の中に残ったわずかな電気に起因するものであり、正常な状態です。

SRM Series

質問

SRMシリーズのTHRUジャックから何台までSRMシリーズを接続することができますか？

入力に機器を接続しただけでハムノイズが乗るのですが・・・

SRM350, 450, 550, 650はフロアモニターとして使用することはできますか？

答

SRM450の台数はミキサーからの出力インピーダンスやSRM450に直接接続している機器のインピーダンスによって決まります。音源を再生している機材の出力インピーダンスが複数台のSRM450の入力インピーダンス(ZT)の10倍を下回らないようにしてください。複数台のSRM450のトータル入力インピーダンスは以下の単純な手法を用いて計算ができます。 $n = \text{SRM450が一緒にケーブルでつながれている台数}$
 $ZT = 0$ オーム以内でつながれているSRM450のトータル入力インピーダンス。これらを基にMackie VLZシリーズコンパクトミキサーと一緒にSRM450を使用した場合、16台までのSRM450が数珠繋ぎで何も問題なく接続が可能です。もし16台のSRM450でも音量が足りない場合・・・もしかしてあなたは耳栓をしたまま16台のSRM450を聞いていませんか？？ まずは耳栓をしていないことを確認してください。

他の機器が接続されているときにスピーカーから60Hzのハムノイズが乗る場合、グラウンドループが原因のノイズだと推測されます。このグラウンドループはふたつの機器間でシグナルグラウンドの電気的相互作用によって発生するものです。そしてこれらは必ずしもスピーカーが不具合を起こしているということではございません。もしSRMをバランス接地しているのであれば、このハムノイズを解決するもっともシンプルな方法は信号源に近い電源ケーブルの端でシグナルグラウンドリフトを行うことです。注意：これは安全を確認した上で行うことであり、電源プラグのアースを遮断することになります。もしSRMにアンバランス接続されているのであればRadial ICE CUBEのような機器を使うことによってグラウンドループを除去することができます。

もちろん使えます。おそらくSRMシリーズと同じように明瞭度の高いフロアモニターをこの価格帯で他のメーカー（YやJ、Bもかな？）で探すのは苦勞することだと思います。SRMシリーズは非対称の台形のエンクロージャーを採用し、フロアモニター設置で的確にミュージシャンに音を届けます。またハードロックミュージシャンが足をモニターの上に乗っけてもひっくり返って無様な様を見せることもないでしょう。（極端なアクションをすればひっくり返ることもあるのでほどほどに格好つけてくださいね。）

SRM Series

質問

ハイパスアウトは何に使うのですか？

答

SRMシリーズのサブウーファーとフルレンジスピーカーを接続する際にハイパスアウトを使用します。サブウーファーと組み合わせて使用する場合には低域をすべてサブウーファーに負担させ、フルレンジスピーカーでは低域を再生させないほうが全体のサウンドがすっきりとし、余分な低域をカットし、中高域を強調することができるからハイパスアウトを使用するのです。

SRM1550、1850、2850は本体のノブでハイパスの周波数を自分の好みや使用するスピーカーによって自由に設定ができます。SRM1550にはSRM350,450、SRM1850にはSRM550,650、SRM2850にはSRM750のプリセットデータが内蔵されており、ボタンひとつで瞬時に呼び出せます。

SRM1550,1850,2850もしくはSRM1801を使用する際にクロスオーバーは必要ですか？

SRM1801には周波数固定のクロスオーバーが内蔵されております。ミキサーからの入力信号をハイパスしフルレンジスピーカーに出力します。

SRM1550,1850,2850には周波数可変のクロスオーバーを搭載しています。お使いになるフルレンジスピーカーに合わせて自由に設定ができます。

リミットのLEDランプが点灯したのですが・・・

リミットLEDランプが点灯、点滅している場合、過入力状態に有ります。もしそのような場合はリミットLEDランプがつかない程度まで入力レベル信号を下げてください。

異なるスピーカーモードはどう使い分ければいいですか？

異なるスピーカーモードは出力のEQカーブ設定が異なります。使用する用途に合わせて4つのモードから選択してください。PAモードはもっとも素直な音作りをしています。通常はこのモードを選択してください。

DJモードは高域と低域を持ち上げたDJプレイに最適なモードです。

モニターモードはハウリングをしづらいように設定されており、ボーカルが明瞭に聞こえます。

ソロモードはアコースティックギターの弾き語りにも最適なモードです。